

# 通常の学級における発達障がい等支援事業 第1回地区別事業報告会(北河内地区)

平成25年8月27日15:00～17:00 (四條畷市立市民体育館 サン・アリーナ25)  
当日参加者166人(幼稚園・こども園13 小学校86 中学校56 その他11)

## 1. 実践報告

### <四條畷市立四條畷南中学校> すべての生徒がいきいきと

5月末のアドバイザースタッフの学校訪問で4点の指導を受けた。①小中連携の大切さ(この中学校区の子ども達は体力に課題がある。)②個々の特性を考慮した楽しいクラブ活動の推進③生徒のやる気を起こす導入の在り方④学校全体での体制作りと取組み。

また、生徒が学習や学校生活に一層意欲的に参加できるよう、学校や教師の関わりについて、客観的に細かく分析する必要性もご教示いただいた。



### <四條畷市立四條畷南小学校> 南小のスタンダード作成へ

アドバイザースタッフの学校訪問では、参観いただいた児童の様子について家庭環境の分析を交えながらご助言いただいた。全国学力調査の結果からも生活習慣に課題があることが浮き彫りとなっている。その中で、いろいろな視点から子どもを見ることにポイントをおき、すべての通常の学級でできる支援の在り方を探り、南小学校のスタンダード「サザン・オール・スタンダード」作成に向けて、取組んでいく。

### <四條畷市立四條畷東小学校> 授業のユニバーサルデザイン化

教室掲示の工夫など既に学校全体で取組んでいる内容に加え、今年度は授業づくりに力を入れている。効果的な視覚支援、指示の出し方、仲間とのかかわり(グループ学習・話し合い活動)等、校内研究の「体育科」の授業を通して実践力向上に取り組んでいる。アドバイザースタッフ、サポートチームからの指導を受け、今後は「体力の向上」「グループ活動の活用」を課題に挙げながら、授業のUD化を探る。



## 2. パネルディスカッション

(指導助言のポイント)

◆ 中学校が本事業に参画している点を活かし、小中学校間で、子ども理解の視点からの公開授業を設定するなど連続性のある取組みを推進する。

◆ 「できない」ことを「どのようにしたらできるか」という支援教育の観点を活かした授業づくりは、どの子にも「わかる・できる」授業を提供するものである。

◆ 支援教育コーディネーターが中心となり、子どもたち一人ひとりの実態や学級全体の状況をアセスメントシート等活用しながら客観的に把握した上でアセスメントを行い、学級や学年、学校全体の具体的な取組みに活かす。



<パネリスト>

実践研究校  
大阪府教育委員会サポートチーム  
<コーディネーター>  
四條畷市教育委員会事務局

# 通常の学級における発達障がい等支援事業 第2回地区別事業報告会(北河内地区)

平成26年1月20日13:55～17:00 (四條畷市立四條畷東小学校)  
当日参加者108人(幼稚園・こども園6 小学校65 中学校24 その他9)

## 1. 実践報告

### ＜四條畷市立四條畷南中学校＞ すべての生徒がいきいきと

今年度の取組みを振り返ると、教科だけでなく運動の特性を生かしたクラブ活動の取組みや指導案の改善工夫が図られる等教職員の意識変容が少しずつみられる。今後の取組みも含めポイントとして、4点あげられる。

- ①小中連携の大切さ(体力面での課題解決等)
- ②個々の能力や運動の特性を考慮したクラブ活動の運営
- ③生徒のやる気を起こさせる授業の導入のあり方
- ④自尊感情を高める手立て

以上を重点的に取組み、より深めていきたいと考える。



### ＜四條畷市立四條畷東小学校＞ 授業のユニバーサルデザイン化

今回の事業報告会において、1・2年生で公開授業と実践報告を行った。公開授業では、指導案において学習のユニバーサルデザイン化が図れるよう展開を工夫した。これまで4回の研究授業を行いサポートチームの指導助言を受け、授業の構成やICTを活用した視覚支援等の工夫を研究してきた。今後も、深めていきたいと考える。

実践報告では、当初中尾先生からご指摘のあった児童の姿勢や体力に注目し、①正しい姿勢の意識付け ②体力向上の取組み等を重点的に進めている。また、より自己肯定感を高められるようなグループ活動を取り入れた授業展開や学習規律を学校全体で統一を図る等、教職員全体が共通理解し、系統立てた取組みとなってきた。

今後も、さらに具体的な取組みとなるよう、アイデアを出しながら、通常の学級の中で取り組める支援のあり方を探っていく。



## 2. 指導助言・講演「みんなの特別支援教育」

(指導助言のポイント)

指導助言として、「自己主張したい」また「かまってほしい」児童への対応の仕方について、その手法やタイミングの良さを評価いただいた。また、取組みが学校全体のものになっている点や、よい活動例を児童が説明するDVDを作成し活用する等、「分かる」工夫についても評価いただいた。

講演では、児童・生徒のアセスメントの仕方を、姿勢や体力と関連させてお話しいただいた。特に、子どもたちの学力は体力・運動能力と密接な関係があり、他市の取組み例をもとに日頃の学校生活の中で、基本的な身体能力を継続して高めることが大切と説明いただきました。



＜指導助言・講演＞  
関西国際大学 教育学部 教育福祉学科  
こども学専攻 教育福祉学科長  
学長補佐 中尾 繁樹 先生

# 通常の学級における発達障がい等支援事業 第3回地区別事業報告会(北河内地区)

平成26年8月26日14:30~17:00 (四條畷市立市民体育館 サン・アリーナ25)  
当日参加者182人(幼稚園・こども園9 小学校100 中学校54 その他19)

## 1. 実践報告

### 〈四條畷市教育委員会学校教育課〉 「四條畷市の授業づくり ～『通常の学級における発達障がい等支援事業』の取組みを通して～」

取組みも2年目に入り、子どもの見立てや学習環境及び授業づくりについて、アドバイザースタッフ等からの指導のもと、教員の意識付けがかなり進んできたことが大きな成果である。実践校では、児童生徒の実態に合わせた取組みも始まり、学校全体として動き始めたという手ごたえを感じている。しかしながら、子ども主体の授業への深化や市内全校への推進については、さらに深める必要がある。今後は、3校において公開授業を行い、広く啓発するとともに実践を深めていく計画である。



### 〈四條畷市立四條畷南小学校〉 「南小スタンダードと支援教育を取り入れた授業づくりをめざして」

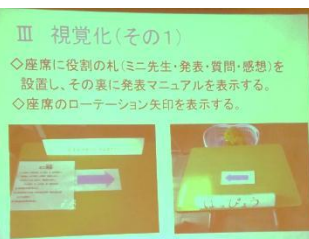


当该校では、アドバイザースタッフの中尾先生(関西国際大学)のご指摘を受け、様々な取組みを導入している。

- ①児童への姿勢や鉛筆の持ち方の意識付け
- ②授業の始めに覚醒レベルが上がるような活動の導入
- ③児童一人ひとりの課題や実態を踏まえた座席配置や班の構成
- ④学習環境や学習規律、授業中の教師の指示内容の統一

等、学校全体の取組みとして進んできた。これらの取組みを、校内研究授業を通して、全教職員でR-PDCAサイクルのもと検証を行い改善を図っている。

取組みの成果としては、「教員の意識向上が図られたこと」、「子どもが安心して臨める授業につながってきたこと」等があげられる。また、全国学力・学習状況調査の結果から、当该校の学力向上にも寄与していることが見えてきた。今後は、さらに、取組みを深化させるとともに授業づくりに焦点をあて、“南小スタンダード”の確立をめざしていく。



## 2. 指導助言・講演

### 「授業のユニバーサルデザインをめざして —支援教育の成果を活かした授業改革を—」

(指導助言・講演のポイント)

これまでのバリアフリーの観点から、子どものニーズに合わせた教育＝ユニバーサルデザインへの転換についてご講演いただいた。「特別な支援が必要な子どもへの支援はすべての子どもに対して有効なものである。」という考えのもと、この間の四條畷市での取組みはすべての子どもの参加が推進されてきた点について、評価していただいた。今後は、支援教育と教科指導の融合により、授業改善を行うことが求められていること及び個々の学力課題の違いや発達障がいの有無にかかわらず、すべての子どもが楽しく、「わかる・できる」をめざした教科の特性に応じた工夫を進めるべきと示唆いただいた。



〈指導助言・講演〉  
大阪大谷大学  
教職教育センター長  
教育学部 藤村 裕爾先生